



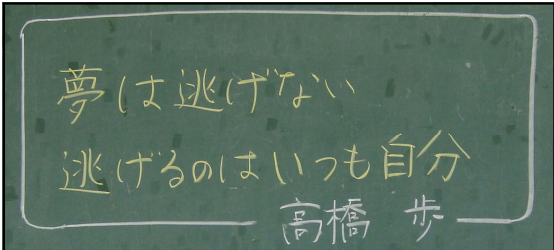
浦島伝説

心に響く言葉

1年生がさわやかな風を吹き込み、学校が活気に満ちあふれています。授業中も真剣に取り組んでいる姿が見られ、校内がたいへん落ち着いています。いいスタートが切れました。

各階廊下にある掲示板には、それぞれの学年に応じた詩や言葉が書かれています（右上の写真はその一部分です）。また生徒たちの輝く笑顔が“浦島写真館”として紹介されています。これらは、荻田典子先生と篠原ゆきみ先生が担当してくださっています。心が和やかになる風景でもあります。

私たちは、このような言葉にたくさんの元気や勇気をもらうことがあります。また、ときには、自分を振り返り、考えさせられる文章に出会うこともあります（※下の文章）。何気ない一言が心に響き、その後の生活に大きな影響を与えることがあるのです。まさに、“言葉が未来を変える”のです。



人は転ぶと、坂のせいにする。
坂がなければ、石のせいにする。
石がなければ、靴のせいにする。
人は、なかなか自分のせいにしなない。

人生を100だとしたら、
悲しいときはシクシク泣いて $4 \times 9 = 36$
嬉しいときはハハと笑って $8 \times 8 = 64$
足したら全部で100になる。
人生は幸せの方が多んだな。

★ 「置かれた場所で咲きなさい」という言葉を入学式で贈ります。「置かれた所こそが、今のあなたの居場所です。ここで咲いてごらんください。私たちがそのお手伝いをしますからね」と。

「咲く」のは本人ですが、草花が育つのに日様が必要のように、周りの環境もとても大事です。子どもたちは、「認めてくれる」「かまってくれる」「ほめてくれる」ことをとても喜び、そうすることで伸びます。ただし、おだてたり、お世辞でほめたりはしません。できていないことに対しては、厳しく注意します。言葉遣いやお辞儀の仕方など、間違っていたらその場でやり直しさせます。社会に出てから困るのは、その子なのであります。

★ 先生方には、「尊敬できる存在」であってほしいと思います。子どもたちが次の環境、新しい境遇の中でしっかり生きていけるように、叱るべき時は叱ることが肝心です。本気でその子のことを大切に考えての言動であれば、必ず心に響くはずですよ。

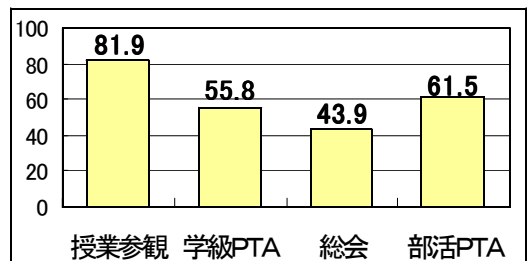
★ 保護者の方には、「今」子どもを喜ばせることばかりに目を向けるのではなく、「将来」の幸せにつながるような価値観を伝えることを大事にしていきたいですね。子どもに価値観を伝えるのに言葉はいりません。ご自身が誠実に努力して生きる姿を見せるだけでいいのです。

子どもは、親や教師の「いう通り」ではなく、「する通り」になっていくものです。

※渡辺和子さん(ノートルダム清心学園理事長)の対談から抜粋 <浦島伝説No40(平成25年1月18日発行)再掲>

参加率アップをめざして…

右のグラフは、昨年度の第1回浦島デー参加率です。授業参観は80%を超えていましたが、徐々に減少し、部活PTAで盛り返すという現象でした。例年「昭和の日」に実施しているために、仕事の関係で参加できない人もいらっしゃると思いますが、昨年度より参加率アップをめざしたいと思っています。



また、今年は、案内状でもお知らせしたように、2・3年生は、学級PTAで学級役員（教養委員）を決定します。最終的に“くじ”で決定することになった場合は、公平さを期すため、欠席している人も含めて実施しますので、ぜひ参加くださるよう重ねてお願いします。

さらに、昨年度の学校評価委員会で、「参観中に廊下で大きな声で話をしたり、ガムを食べたりしている保護者がいたのが残念だ。子どもたちはそういう大人の姿を見ている」などの声が聞かれました。

「生徒・保護者・教職員が全力で過ごす日」にするためにも、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。